

女亀山 保全活動

7月13日(日)

女亀山の登山道整備や環境保護のため、女亀山保護育成会や島根県と、登山道の草刈りなどを実施しました。

女亀山は、県の自然環境保全地域に指定されており、毎年この保全活動を行っています。また、三瓶自然館の井上雅仁副館長が同行し、女亀山の動植物の生息環境を調査・観察しました。

町は、引き続き県や保護育成会などと連携し、女亀山の保全活動を続けていきます。



自生する植物の生育状況などを調査

エコアクションを学ぶ 講演会を開催

8月2日(土)

脱炭素の取組の一環として、小中学生を対象にエコをテーマにしたまちづくり講演会を開催しました。

講師は、国土交通省の研究所に所属し、環境に配慮した建物を増やすための法律整備などに取り組む宮田征門さん。エネルギーの仕組みやエコの大切さについてのお話や、特殊な機械を使ったさまざまな実験を行いました。

参加者に配布したエコチェックシートは、夏休み中に取り組んでもらい、その結果を9月下旬ごろに町のホームページに掲載する予定です。



エアコンの冷房・暖房の仕組みを教える
宮田さん(右)

飯南高校 サマーツアーを開催

8月2日(土)～4日(月)

飯南高校生と町内をめぐり、本町や高校の魅力を体感するサマーツアーが、町外の中学生を対象に開催されました。

関西や福岡県から5人が参加し、森林セラピーや志津見ダムでのサップなどを体験し、本町の自然や在校生・地域住民と交流。最終日には高校のオープンハイスクールに参加して高校の教育活動や特色を知り、本町に理解を深める機会となりました。

今後も飯南高校と連携し、教育魅力化を図っていきます。



ツアー内容は飯南高校生が企画

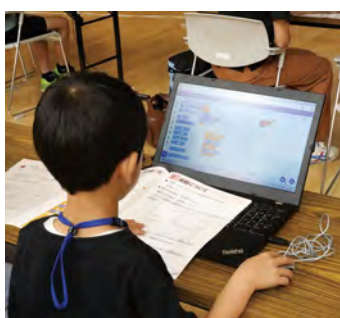
プログラミング 教室を開催

8月7日(木)

プログラミング言語・Rubyを学ぶ教室を、本町で初めて開催しました。

この教室は、小学生を対象に県が主催し、将来のデジタル人材の育成を図ることが目的。Rubyは、プログラミング言語の中でもシンプルで理解しやすく、アプリ開発やゲーム制作といった幅広い分野で活用されています。参加者は「スモウルビー」というRubyを学べるソフトを使い、ゲーム制作に挑戦しました。

この教室での学びをきっかけに、子どもたちが将来役に立つデジタル技術を身につけることを期待しています。



慣れてくると、短時間でもプログラムを作成できるように

チャレンジオフィス入居者決定

チャレンジオフィスは、企業等が町内で事業化を図ることを目的に利用できる貸事務所です。令和2年度から赤名地区の福島邸の2階を活用し、チャレンジオフィス事業を実施しています。

8月1日から新たな入居者が決まりましたのでご紹介します。

●入居者

PEACEMAKER COFFEE ROASTERY 代表 下村 允人さん

●事業内容

自家焙煎珈琲の製造、販売

●下村さんのコメント

名古屋から飯南町へ移住し、都市部で培った経験と地域での生活を結び付け、心安らぐ「おうちコーヒー文化」を地方にも広げたいと考えました。本格的なコーヒー焙煎所として、地域に根差した活動を通して、新たな日常の豊かさを提案できればと思います。

飯南町の地域資源と連携した商品開発や福島邸を活用したコーヒーの提供など、地域の方々とつながる場の創出も検討しています。



ご自身で焙煎されています



水出しコーヒーや豆などすでに町内で販売中の商品も



下村さんについて
詳しくはこちら

コンポストの取組を 進めています

「脱炭素のまち」を推進する本町では、脱炭素を身近に取り組んでもらうため、コンポストの設置を推進しています。

コンポストとは、家庭から出る生ごみや落ち葉などの有機物を、微生物の働きで発酵・分解させて土に戻す環境にやさしい生ごみ処理で、利用することにより、ごみの削減が期待されます。

町は、各家庭へのコンポスト普及を図るため、出前講座を実施。予定を上回る受講希望があり、今年度の受付を終了しました。ごみ問題への関心の高さもうかがえたため、今後もごみ削減の取組、啓発活動などを行っていきます。



普及を進めていくコンポスト

保育所の今後のあり方に 関する要望書を受理

飯南町社会福祉協議会の小野彰会長から「保育所の今後のあり方に関する要望書」が提出され、塚原町長が受理しました。

同社会福祉協議会は、町内4か所にある保育所の運営を町から受託しています。要望書では、保育士確保が困難となってきたこと、児童数の減少、出生数の伸び悩みなどを踏まえ、「町内保育所の今後のあり方について協議する場を設けること」などが盛り込まれています。

今後、保護者や保育士などから意見を集約しつつ、保育所運営のあり方を検討していきます。

